

城北埼玉中学校

算数

全分野から偏りなく出題します。基本問題から標準レベルの問題まであります。計算力、図形の基本的な性質（面積・体積、辺の長さの比と面積の比の関係）の知識、文章題を理解する力を求めています。図形問題が明暗を分ける傾向にあります。演習問題を数多く解いておきましょう。グラフや作図を出題することもあるので、定規・コンパスの使い方にも慣れておきましょう。

国語

文章問題が2題（文学的文章と論説文が各1題）あり、ほかは漢字の読み書きです。文章がやや長く、また設問に紛らわしい選択肢があるため、短時間で文章を読み、内容をつかむことが要求されます。とはいえ、特別なことをするのではなく、文章をていねいに読み、作者・筆者の訴えていることを正確に読み取る練習をしてください。また、自分の意見を述べる50字程度の記述式問題を出題しています。自分の考えをわかりやすく表現する力を求めています。

理科

4分野からまんべんなく出題し、配点は4分野均等です。知識を問う問題だけでなく、計算力・思考力を問う問題もあります。実験に関する問題では、得られたデータを処理する能力や、問題文を理解する読解力が必要です。実験の目的と方法、その結果からわかることなどを、きちんと理解する力を求めています。

社会

3分野とも、ほぼ同じ配分で出題します。記号選択と用語記述のほかに、短文記述（20字前後まで）も出題されることがあります。受験生の読解力・思考力を問うため、分野にまたがる総合問題、融合問題とともに、地図・写真・グラフ・資料の読み取りの問題も出します。用語の解答は、ほとんどが漢字指定となっていますので、内容の理解だけでなく、正確な書き取りが要求されます。また、時事問題も多くあります。ふだんから新聞やニュースなどを通じて、世の中の出来事に関心を持つようにすることで対策が可能です。なお、3分野の融合問題を出題するのは第1回入試のみです。

大妻嵐山中学校

算数

【一般入試・まなび力入試】大問は4題程度です。各大問には小問2～10問があり、合計25問を出題します。大問①は、中学数学を学んでいくうえで不可欠な計算力を問う問題です。小数や分数の計算を含むので、きまりに従って正確に答えを導き出す練習をしてください。大問②からは、さまざまな分野で必要となる基本の公式や考え方を、きちんと理解しているかどうかを見る問題です。特に後半は、文章題や規則性を見つける問題、グラフを読み取る問題、図形問題などで思考力・応用力を問います。全体的に難問・奇問というレベルではないので、日ごろから問題文をよく読んで、解き方の道筋を正しく順序立てて考える訓練をしておいてください。

【奨学生入試】大問は5題程度です。各大問には小問2～6問があり、合計20問を出題します。大問①と②は計算問題、数の性質、場合の数などの一行問題で、大問③～⑤では平面図形、立体図形、割合、速さなど、さまざまな問題が出題されます。計算問題は、正確さだけを問うものではなく、工夫をすることによって計算がしやすくなるものです。数の性質、図形、文章題など、各分野からまんべんなく出題するので、一つの単元をきちんと理解し、その単元における応用問題を解く力もつけておくとよいでしょう。単なる知識やテクニックを活用して解く問題だけではなく、整理する力や処理能力を問う問題もあります。このような能力は、問題文をしっかりと読んでその意味をとらえ、論理的に考えたり、正確に書き出したりするときにも重要になるので、訓練しておいてください。

国語

いずれの入試回も、語句問題では、文法、ことわざ・慣用句、類義語・対義語、四字熟語、語句の意味、文法などの知識と、漢字の読み書きについての出題を行います。文章読解問題は、文学的文章と説明的文章の2題です。文学的文章では、場面設定や登場人物の心情などについて読解し、考えを表現する力を問います。説明的文章では、論理的思考力を問いますので、長めの文章を読み、結論や要点をつかむ練習が必要となります。いずれの文章でも、問われていることに正しく答える力や、本文に即して登場人物の心情や筆者の主張を理解する力が求められます。また、抽象的な表現に対して、それを説明するための具体例を挙げる力、考えを的確に文章で表現できる力も養っておきましょう。

理科

大問は4題です。各大問には小問5問程度があります。生物・化学・地学・物理の順で、各分野から出題しますが、複数の分野にまたがる複合的な問題もあります。小学校で学習した内容について、実験結果や図表・グラフなどを分析する論理的思考力を問うものとなります。教科書に出てくる基本的な用語はもちろん、実験の方法や実験の結果などもしっかりと学習しておきましょう。科学的なものの考え方を身につけていくためにも、ふだんから自然に対して関心を持ち、興味深く観察して、疑問に思ったことを調べようとする姿勢を養ってください。

社会

地理・歴史・公民の各分野の基本的知識をどの程度身につけているかを確認する問題を出題します。各分野からの出題を通して、①社会のしくみ、歴史、地理に関する基礎的な知識、②それらの知識や情報を用いて、社会的な事象について理解する力、③日々変化する社会情勢に興味・関心を持ち、それらについて考える姿勢、④理解したことや考えたことを説明する力があるかどうかを問います。過去問題をはじめとするさまざまな問題の演習に取り組みましょう。また、統計・グラフ・図表などを読み取る練習もしておきましょう。

国府台女子学院中学部

算数

出題形式については 2020 年度と同じです。易しい問題を解くときもていねいに計算し、見直しの時間を取るなどして、正確に答えを求められるようにしてください。特殊算の代表的なものは習得しておきましょう。また、図形やグラフの問題については、たくさん演習に取り組んでください。

国語

推薦入試は小問集合のみですが、1000 字程度の短い文章からの出題があります。第 1 回・第 2 回入試は、長文問題 1 題（説明文か文学的文章）と小問集合になります。知識を問う小問はどの入試でも比重が高いため、よく勉強しておきましょう。漢字・熟語、慣用句・ことわざ、正しい文章表現、敬語、短文作りなどに加え、「ヒントに沿って考える力」を見る問題も出題する予定です。

理科

推薦入試は 4 分野（生物・化学・地学・物理）からの小問集合と、生物・地学・物理の各分野の大問を出題します。第 1 回・第 2 回は、大問 5 題（小問集合と、生物・化学・地学・物理の各分野の大問）になります。知識問題や計算問題を含めて、基礎から応用まで幅広く出しますので、問題文や実験データをよく読み取り、法則や規則を見つけられるような練習をしておくといでしょう。

社会

出題傾向は例年並みです。時事的な問題も出題しますので、新聞・テレビのニュースなどに興味・関心を持つようにしてください。また、世界にも目を配る一方、日本各地の気候・風土や、各種産業、統計資料などもよく勉強しておいてください。

和洋国府台女子中学校

算数

計算・穴埋め一行問題が 6 割程度、文章題・数量関係・図形が 4 割程度です。解答を出すための考え方や、理由を記述する問題が一部にあります。約分忘れは不正解とします。円周率は「3.14」を使う問題を出題しています。

国語

長文の読解（文学的文章・説明的文章）、表現力・言語操作能力を測る作文や長文記述、漢字・語彙・文法・国語基礎知識などを測る問題を出題します。テクニックだけに走らないていねいな読み取りをする力や、経験に基づく発想力なども必要です。

理科

物理・化学分野が 4～5 割、生物・地学分野が 4～5 割という出題です。グラフや表の読み取り、実験結果から答えを求める思考力を問う問題、理由やしくみを記述で解答する問題、ニュースや話題になった科学に関する問題などもあります。

社会

地理・歴史が各 4 割程度、政治と国際社会が 2 割程度の出題です。資料あるいは知識をもとに、記述で解答する問題があります。都道府県や人物名・用語は、教科書に漢字で表記されているものについては、正しい漢字で書けるように勉強してください。

英語

新学期の授業はリスニングを中心にスタートします。その授業にスムーズに入ることができるよう、入学試験問題の 8 割以上はリスニングとなります。小学校の英会話授業を受けるだけではなく、NHK ラジオの英語講座を聴いたり、英検®4 級問題などで練習したりもしてください。

市川中学校

算数

大問は 5 題程度で、解答時間は 50 分です。自分が解きやすい問題を把握して、時間配分をしてください。計算問題や基本問題から、図形やグラフ、読解力を問う問題も出題しています。問題文を正確に読み取り、論理的に答えを導き出す力、規則性を見る力、式・図形を見る力、計算力を確かめたいと考えています。

国語

「物語的文章」「説明的文章」「漢字に関する問題」の問題構成です。文章の難度は例年あまり変わりません。時間配分に注意して、正確に、かつスピーディーに読解し、解答することが大切です。100 字以下の記述問題を何題か出題します。記述問題は答えるべき要素が入っていれば部分点を与えるので、あきらめないでください。

理科

広い分野からの出題を心がけています。大問は 4 題で、物理 1 題、化学 1 題、生物 1 題、地学 1 題という構成です。基本的な理解ができていることを問う問題が半数を占めます。パターン学習に走らず、しっかり基本を身につけてください。計算問題、用語を問う問題、論理性を問う問題を出題します。記述問題も出題しますが、そこでは採点者に伝わる正確な語で、わかりやすい説明をすることを求めています。標準レベルの問題の出来具合が決め手となるでしょう。

社会

第 1 問で原始古代～近代の歴史総合問題（政治史・社会経済史）を、第 2 問で地理総合問題を、第 3 問で公民総合問題（社会と経済の仕組み）をそれぞれ出題します。配点の目安は、第 1 問が 40 点、第 2 問が 30 点、第 3 問が 30 点です。「漢字で答えなさい」と指示があるものについては、必ず漢字で解答してください。一問一答の問題だけでなく、記述の問題もあります。その際は部分点もあります。出題傾向が大きく変わることはないので、必ず複数年の過去問を解いて本番に臨んでください。

江戸川学園取手中学校

算数

大問は6題です。計算問題や文章題、図形問題など幅広い分野から出題し、思考力を問う問題がやや多くなります。コンパス・定規・分度器は必要ありません。答えが合っていれば正解とします。

国語

文章問題を3題出題します。漢字の書き取りは文章問題のなかで、1割程度の配点で出題します。ことわざ・慣用句、語句の意味なども数問出題します。文学史の問題はありません。また、100字程度の記述問題を出題します。

理科

4分野から大問4題を出題します。実験・観察を表す図・文章・表・グラフを見て解く形式で、各分野からまんべんなく出題しています。形式は、選択式のほかに適語記入、計算、作図やグラフなどの問題も出題します。近年は、記述問題や思考力を要する問題が増加しています。

社会

地理分野は日本地理を中心に、世界地理も出題します。歴史分野は各時代から出します。公民分野は時事問題も出題します。3分野とも漢字指定の問題があります。漢字で書くべき事柄を漢字で書けるようにしておきましょう。思考力を重視した問題も出します。

英語

出題レベルはCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）でA1からA2程度、実用英語検定で3級から準2級程度となります。ただし、マーク形式ではなく、選択式と記述式を併用します。内容は、語彙・文法・作文・長文読解などです。今年からリスニングが出題されます。言語としての英語の知識だけではなく、論理的に物事を考える力や、コミュニケーションツールとして英語を運用できる力も試します。

適性型 A

大問は主に国語と社会を中心として3題出題します。複数の資料を読み解く力や文章を読んで自分の考えを書く力を問う問題を出題します。論述問題が中心となるので、表・グラフ・地図を解釈する能力を高めるとともに、自分が伝えたいことを明確に伝える表現力も養成するようにしてください。

適性型 B

理数的な総合問題を出題します。特に与えられている情報を整理し、公式や現象につなげられる発想力や、それを表現できる思考力が求められます。問題文をしっかりと読むようにしてください。

※2021 年度入試から、受験型は「4 科目型 (国・算・社・理)」と「英語型 (国・算・英)」、
「適性型 (適性型 A・適性型 B・集団面接)」からの選択になりました。なお「適性型」は
第 1 回入試のみになります。

大宮開成中学校

算数

「解く前にきちんと考える」必要のある問題を出題しますが、計算力・基礎知識・図形処理能力など基礎・基本を重視することは変わりません。大問 7 題構成で、大問①は「計算問題」です。大問②と③は「応用小問」で、特殊算・図形について問います。ここまです落とさないことが合格の鍵です。大問④～⑦は文章題で、割合、図を読み取る問題、図形の問題などを出題します。文章題を 1 題でも多く解答することで、さらに高得点が狙えます。

国語

大問 3 題構成で、どの大問にも思考力を問うものを織り込み、単なる文章読解力だけでなく、表現力も見ます。大問①は「漢字・ことば」で、漢字では「とめ・はね・はらい」の正確さを、ことば問題では、グラフ・資料などからの的確に情報を引き出して表現する力を見ます。大問②の「論説文」では、文中のことばの意味、語句や文の補充、指示語の内容指摘、内容理解について問います。大問③の「小説」では、登場人物の心情や人物像、表現の特徴などについて問います。字数指定の記述問題は 50 字程度です。未回答がないよう、どの問題から着手するかを考え、最後までスピードを持って取り組んでください。

理科

物理・化学・生物・地学の 4 分野からまんべんなく出題し、基礎知識だけでなく、文章やグラフの読解力、計算力を問います。“見慣れない” 題材も出てきますが、資料をきちんと読み取り、論理的に考えられれば解答できる内容です。大問 5 題構成で、大問①は物理・化学・生物・地学の「小問集合」。大問②～⑤はそれぞれ生物・物理・地学・化学の各分野の問題になっています。特に大問③の物理と⑤の化学では計算力を要するので、スピードをつける練習をしてください。また、他校の過去問題を使った練習も役立つでしょう。

社会

地理・歴史・公民（論述）の 3 分野から基本的な知識を問います。地理では日本の自然や農業・産業などについて、地図や統計資料から問います。歴史分野では“いつどこで誰が何をした”にとどまらず、原因や理由、影響を簡潔に述べてもらいます。また、文化資料や写真の確認も必須です。公民では、憲法や政治・経済のしくみなどの基本事項を問いますが、最後の論述（50 字）では、新聞やニュースで取り上げられた時事的な事柄について、自分の意見やさまざまな立場での意見を述べる力が必要です。問題数が多いので、どの大問から取り組むかは工夫してください。

開智中学校

算数

途中の考え方を聞く問題も一部出題します。先端特待入試や算数特待入試でも小問集合があります。正確に、スピーディーに計算できるように、日ごろから繰り返し練習をしておきましょう。答えを出した後、検算をする習慣をつけておくと、得点アップにつながります。計算過程をていねいに書き、ミスを見つけやすくするなどの工夫を心がけてください。また、過去問題を解いておくと、傾向がつかめると思います。

国語

基礎力をしっかり身につけましょう。漢字の知識を増やしてください。また、自分の知らないことばや語句に触れたときは、辞書で調べるようにしましょう。たくさんのことばを知るとは、表現力を豊かにすることにもつながります。次に、自分の書いた文章は必ず読み返しましょう。そうすれば、主語・述語の関係や「てにをは」の間違いに気づきます。また、文章を比較して、どの文章がどんな立場からの意見を述べているか、考えながら読んでいきましょう。

理科

基本的には、各分野からまんべんなく出題する予定です。基礎的な知識を問う問題はもちろんですが、リード文を正しく読み取る力や、データを読み取ってグラフを描く力を見る問題、複雑な計算問題などもあります。また、幅広い知識と思考力の両方が求められる総合的な問題もあるので、応用問題への対策も欠かさずやっておいてください。時間配分を考えて、解ける問題から解いていきましょう。

社会

まず、基礎を固めることを心がけてください。きちんと知識が定着するまで繰り返し復習することが重要です。また、自分で説明する問題では、基礎的な内容をしっかり身につけたうえで、その知識を使って考えることが正解につながります。地理・歴史・公民分野からほぼ同じ割合で出題するので、不得意分野をつくらないことも大切です。過去問題をしっかりと解いておくと、傾向もつかみやすいと思います。

春日部共栄中学校

算数

大問 7 題を出題します。①は計算問題です。分数の計算を正確にできるようにしておきましょう。②はさまざまな分野の小問集合で、時間配分に注意が必要です。③は点や辺が動いてできる図形の長さや面積などを求める問題です。図形の動く様子をとらえられるようにしておきましょう。④は数え上げて法則を見つける問題で、少し時間をかければ得点しやすい内容となっています。⑤はグラフを読み取る問題です。グラフをうまく活用できるようにしましょう。⑥は定義演算の問題です。必ず例が与えられているので、そこから演算の意味を読み取れるようにしておきましょう。⑦は、5 年生までの範囲で解ける問題と回転体の問題の 2 題から 1 題を選択して解答します。解きやすいほうを選択してください。なお、2021 年度は記述問題がなく、すべて答えのみの解答となります。傾向は例年と変わりません。

国語

大問 4 題を出題します。①は漢字の書き取りが 7 問、読みが 3 問です。②は説明的文章、③は物語的文章、④はグラフや表を読み取り、表現する問題となっています。①の漢字問題は漢字検定 5 級程度から出題します。②と③では、文章を読み、理解したうえで考え、表現する力を問います。問題文中より、文法・語彙の問題も出題します。④では、グラフや表から読み取った内容を考え、それを文章で表現できるかが問われます。内容を読み取る練習とともに、わかりやすい文章（正確な文法・誤字等がない）を書く練習も行っておくとよいでしょう。

理科

物理（運動とエネルギー）、化学（物質と変化）、生物（生物と環境）、地学（地球と宇宙）の各分野から大問 4 題を出題します。大問④は選択問題になっており、5 年生までの内容からの問題と、文章や図を読み解く問題のどちらか一方を選んで解答してもらいます。各分野とも、基礎と応用を問う問題で構成されますが、基礎力を問う問題が中心になります。選択問題を除いて出題傾向に変更はありません。基礎力をしっかりと身につけることが重要ですが、過去問を何度も解き、図や表、文中のことばの関連を読み解く練習や、説明文中のキーワードを見つけ、わかりやすくまとめる練習をしておきましょう。

社会

大問は 3 題です。①は地理分野（20 点）で、日本の地形・気候・農業・工業・都市が出題の中心となります。特に日本の都市や地形の名称は必ず出題するので、確認しておきましょう。②は歴史分野（20 点）で、各時代の特徴をしっかりとつかみ、歴史の流れを理解することが重要です。また、史料や写真を使った問題も多いので、資料集や参考書に載っている史料や写真に目を通しておくとよいでしょう。2021 年度は、③は歴史分野と公民分野の選択（10 点）です。歴史は明治時代のみ出題となります。公民分野は例年と変わらず、憲法に関する問題が中心となります。どちらも傾向は大きな変更がないので、過去問をしっかりとやっておくことがいちばんの対策となります。

光英 VERITAS 中学校

算数

大問は 7 題（小問合計 16～20 問）で、基本問題が 30%、標準問題が 40%、応用問題が 30%という割合で出題します。解答は、答えのみを記入する形式で、試験時間は 50 分、100 点満点です。大問 1 は計算問題で小問は 3～4 問、大問 2 は穴埋め問題で小問は 5 問です。大問 3 以降は標準・応用問題です。割合と比、速さ・時間・道のり、食塩水の濃度、規則性、平面図形、立体図形などが頻出となっています。特殊算も出題しているので、さまざまな問題について解き方を習得しておきましょう。計算力と基礎・基本をしっかり身につけ、数学的な思考力・洞察力を磨いてください。

国語

大問は 4 題あります。まず、漢字の読み書きの問題は 10 問で、四字熟語など漢字の知識に関する問題も出題します。次は、説明的な文章における読解力や思考力を問う問題です。論理的な展開や筆者の主張、文章の内容を理解できているか、キーワードに着目して、わかりやすく表現することができるかを確認していきます。また、自分の意見を書く問題もあります。最後に、新聞のコラムを 100 字で要約する問題を出します。時事問題や社会の様子に興味を持ち、コラムなどの文章に触れておくことが大切です。書かれているテーマや主張について理解し、論理的な文章構成で表現していく力が必要となります。

理科

大問は 4 題あり、物理・化学・生物・地学の 4 分野から均等に出題します。生物分野は、植物の光合成と体のつくり、動物の呼吸と消化・吸収、生物の分類などです。多くは知識を問う問題です。化学分野は、気体の発生と性質、水溶液の性質、溶解度と再結晶などから出題します。難度の高い問題では、再結晶の量などの計算を出題することが多くあります。物理分野は、ふりこ、シーソー、電流の回路、光と音などです。シーソーなどに代表されるように、論理的な積み重ねで答える問題が少なくありません。地学分野は、流水と地層、火山の特徴、地震の波、気温と湿度、前線と雲の関係、星座の動きなどから出題します。知識が半分、論理的なものが半分という配分です。

社会

大問は 2 題で、歴史の割合が最も多く、6～7 割を占めます。続いて、地理、公民というように、分野ごとに問題数や配点が大きく異なります。基本的な知識や理解力に加えて、思考力・表現力・読解力を問います。ふだんの学習では資料や統計などに触れ、地名や用語は漢字で覚えるようにしましょう。歴史分野では、古代から現代までの流れをつかみながら学習してください。資料の読み取りや記述問題も出題します。語句を覚えるだけでなく、出来事の時代背景や影響も説明できるようにしましょう。地理・公民分野では、重要語句だけでなく、地図やグラフを読み取る力も問います。ふだんから日本と世界の結びつきに関心を持ちましょう。ただ暗記するのではなく、物事を分析しながら学習しましょう。

適性検査型

都立中高一貫校の適性検査に準拠した出題形式で、身近な社会生活のなかから課題を見いだし、大きな視点で思考・判断する力を問います。知識問題はなく、問題文をすばやく正確に読む読解力が試されます。後半ほど難度が上がるという訳ではないので、すべての問題に目を通し、解ける問題を確実に解くことがポイントです。

理数

算数は定型的なパターン問題だけでなく、基本からきちんと考える力があるかを試す問題も出題しています。計算問題、典型的な問題に続き、思考力問題があります。理科は物理分野または化学分野で、計算を伴う問題を出題します。

英語

「Reading」「Writing」「Communication」といった力を測るテストで、学習到達レベルは英検®3級程度です。単語・熟語・文法・内容理解を問う長文問題、質問に対する答えとその理由を述べる自由英作文のほか、指定された情報に基づきチラシや招待状などを作成するテスト、外国人を相手に自由な発想で会話を続けるテストがあります。

埼玉栄中学校

算数

出題形式は例年どおりで、基本的な計算問題は3～7問です。文章問題では、濃度、割合、速度、整数の性質、比などの学習をしておいてください。また、面積・体積の問題もしつかり解けるようにしてください。部分点は基本的にありませんが、記述式の問題も一部出題する予定です。

国語

文章読解は説明的文章と文学的文章（小説）の2題です。説明的文章は段落の吟味、語句の意味、接続詞などが問われます。文学的文章は心理描写の把握が中心です。慣用句にも注意しましょう。漢字の書き取りは10問出題します。ことばの問題もあります。

理科

4分野（物理・化学・生物・地学）からまんべんなく出題します。設問は選択式と記述式の併用型です。基本的な問題や、実験・観察についての内容が中心です。また、身近な生活のなかで見られる事象や環境問題、新聞・ニュースにも関心を持ってください。

社会

大問は3題で、3分野（地理・歴史・公民）からそれぞれ出題します。地図や資料を読み取る問題や、時事的要素を含んだ問題もあります。

栄東中学校

算数

入学後の数学指導の観点から「規則性」等の数の性質や「図形」を出題します。この単元は、合格者と不合格者の正答率に最も差が出る問題です。第1回・第2回入試では、**1**小問集合の出題数を多くしています。また、**2**以降の(1)も基本的な考えを問う問題になっており、比較的点数が取りやすくなっています。また、東大特待入試では記述問題や図示する問題を出題することがあります。

国語

漢字や語句などの知識分野で、配点の2~3割程度を出題します。単純に知識を問う問題もあれば、その場で思考をはたらかせて解く問題もあります。漢字に関しては、例文と同じ漢字を用いた文を記号で選ぶ形式で出題します。語句の問題では、文中の空欄に語群から選んだことばを当てはめる問題を出題します。文章題は、原則として、文学的文章と説明的文章の2題構成となっており、文章の総字数は約8000~1万字程度です。解答形式は、抜き出し・選択肢・記述が混在しています。また、記述式の問題では、本文中から正解を読み取って表現する問題だけではなく、自分の経験を踏まえて意見を記述するなど、「自分で正解を創る」問題を出題することがあります。

理科

各日程ともに、物理・化学・生物・地学の4分野から出題します。それぞれの分野に関する観察や実験を題材に、自然の事物や現象について考察していく内容が中心となります。また、グラフや表を読み取る問題もあります。配点の目安は、物理・化学・生物が均等(28%×3分野=84%)で、地学が少なめ(16%)となります。東大クラス・難関大クラスともに出題傾向は同じです。東大クラスの問題には、計算量が多いものが含まれています。

社会

東大特待入試は、昨年度の東大I入試の出題傾向と比べて大きな変更はありません。地理・歴史・公民の各分野から出題し、配点の割合は2:2:1となります。地理では、日本の地理を中心に、日本とつながりのある国についても問います。歴史では、時代を限定せず、古代から現代までが出題範囲です。人物や時代ごとに主な出来事をまとめ、流れをつかんでおくといよいでしょう。公民では、政治分野を中心に出题しますが、経済・国際分野も出題範囲に含みます。

第1回・第2回入試は、昨年度のA日程・B日程入試と比べて問題の内容については大幅な変更はありませんが、今年度より、試験時間が理科と合わせて60分から50分に短縮されることから、次のような試験形式の変更点があります。

①大問数を三つから二つに減らします。原則として、大問**1**を主に地理的分野から、大問**2**を主に歴史的分野から出題しますが、地理と歴史にまたがる問題や、公民的分野の問題も含みます。

②試験時間が短縮されるため、リード文を短くして、文章を読む分量を減らします。問題内容も、基礎的な問題を多く出題するようにします。

芝浦工業大学柏中学校

算数

第1回・第2回とも、大問7題の構成です。①は計算などの基礎力を見る小問、②～④は簡単な文章題や図形の中問、⑤～⑦は文章題や図形の問題です。途中の式や考え方を記入する問題のほか、答えにいたる理由や考え方そのものを文章で表現する問題も出題します。

国語

第1回・第2回とも、大問3題の構成です。①は漢字、②は物語的文章、③は説明的文章で、出題形式・傾向ともにほぼ同じです。物語的文章・説明的文章で、合わせて200字程度の記述問題があります。

理科

第1回・第2回とも、大問4題の構成で、物理・化学・生物・地学の各分野から出題します。単なる知識だけでなく、思考力・計算力も問います。簡単な記述問題もあります。また、総合的な内容もこれまでどおり出題するので、身近な現象・エネルギー・環境などにも関心を持ちながら、各分野をバランス良く学習してください。

社会

第1回・第2回とも、大問4題の構成で、歴史分野（日本の歴史）、地理分野（日本の地理）、公民分野（政治・経済）から出題します。各分野において、グラフ・表・図・地図などの資料から読み取る問題もあり、新聞・テレビなどでよく報道されている内容も扱います。漢字指定で解答する用語問題は、漢字で正しく書かないと不正解になります。分野によっては、10～50字程度の文で説明する問題も出題します。ポイントを押さえて、わかりやすく説明することが大切です。

課題作文

人文社会系テーマ（45分・計250～400字）と理数系テーマ（45分・計200～400字）があり、いずれも簡易的な適性検査型課題作文です。文章を中心に、表・グラフ・図などの資料を参考にしながら解答する問題も含まれます。なお、課題作文入試の面接（5～10分）は、人物を確認するためのもので、特に対策をしなくても答えられる内容です。

昭和学院秀英中学校

本校の入試では、どの教科も各分野からまんべんなく出題しています。ですから、領域や単元によって出やすい・出にくいというものはありません。そういうことよりむしろ、「基礎的・基本的」な内容の知識をしっかりと習得していることと、「自分の頭で考える習慣」を身につけていることが重要です。

算数

3回の入試とも大問5題の構成です。傾向は例年どおりと考えてください。大問 $\boxed{1}$ は小問集合です。基本的な問題を中心に、いろいろな分野から出題します。考えさせるような問題を出すこともあります。大問 $\boxed{2}$ 以降はいくつかの小問を持つ問題です。これまで平面図形、立体図形、数の性質（整数、場合の数、数列、規則性）の範囲のなかから多く出題しています。レベルは基礎から標準を考えています。大問の前半の問題は、比較的基本的なもの、次の問題のヒントになるものが多いので、確実に解けるようにしてほしいと思います。午後特別入試については、試験時間は60分で120点満点です。

国語

大問は説明文と小説の2題です。論理的な文章と文学的な文章の組み合わせだと考えるとよいでしょう。漢字や慣用句などの知識問題は、独立した大問を置くのではなく、それぞれの小問のなかで出します。問題文は、現在活躍中の著者の文章がほとんどですが、昭和時代に書かれた文章の場合もあります。論説・説明文は、科学・言語・哲学・歴史など幅広い分野から、小説・物語・伝記は、主人公が小学生・中学生であるものが中心です。それぞれの設問は、内容の読み取り、適語（熟語・接続語・副詞など）や適文の補充、指示語の内容などを選択肢から選ぶもの、本文中から抜き出すもの、制限字数内で記述するものなどです。知識問題は、漢字の書き取りと慣用句が中心です。記述では、前後の因果関係・言い換え・対比を正しく読み取り、適切に表現できているかを見ます。午後特別入試については、(ア)漢字の書き取り、(イ)漢字の読み、(ウ)文章や図を、関連させて読解する問題になります。文章の読解では、①文章や図を正確に読み取り、ある程度まとまった字数で表現する力を測る問題、②①より解答の自由度の高い記述式問題を出題します。記述問題は2問合わせて300字程度です。ある程度の字数に達しない場合は、採点されないこともあります。

理科

出題の狙いは、小学校で学ぶ理科の内容と、身近な自然現象に関する知識の習得度や理解度を見ることです。また、理科に対する興味・関心の深さも、これらに関連していると考えています。小学校理科の全範囲から出しますが、「物質・エネルギー」と「生命・地球」を主とします。そのほかに、ニュースや新聞で取り上げられた事柄や、日常生活における知識についても、学齢に相応した内容のものは出題の範囲として考えています。

主な形式は、自然現象やデータについて読み取ったり、小問による誘導に従ったりしながら解答していくものです。第1回・第2回の難度に差はありません。各大問は、基本問題や発展問題の小問を含みます。発展問題では、時事問題、データを読み取る問題、描画や

作図で解答する問題などもあります。

過去を振り返ると、「物質・エネルギー」からは「物質の性質とその特定」や「水溶液の性質」など、実験をテーマにした問題が出題されています。物質の性質などの知識を確認するとともに、実験結果・データおよびその設定について読み取れるようにすることも大切です。また、「力のつりあい」「振り子」をはじめとする「物体の運動」など、自然現象とその法則性を問う問題は、実験結果やその設定について読み取って答えるという形式です。「生命・地球」からは、「生物の生態や分類」「動物や植物」などの知識問題や、与えられたデータからその原因を問う問題を出題しています。

社会

本校では、社会に興味を持てるまで、繰り返し勉強しているか、基本的なことを正しく理解し、記憶しているかを非常に重要な要素ととらえています。地理・歴史・公民の各分野から幅広く出題されるため、偏りのない、バランスの取れた学習が求められます。入試は2回ありますが、2回ともほぼ同じ配点（歴史約50%、地理約30%、公民約20%）です。漢字は3分野すべてにわたり、正誤を重要視します。また、60字程度の字数指定や1行の記述問題もあります。

配点のいちばん高い歴史では、すべての時代が対象になります。時代ごとの問題だけでなく、テーマ別にいくつかの時代にまたがって出題することもあるため、どこかの時代だけを好んで勉強するのではなく、古代から現代まで幅広く勉強してください。漢字ミスが最も目立つのが歴史の問題です。用語は漢字で正しく書く必要がありますが、惜しいミスが毎年多く見られるので気をつけましょう。

地理の分野では、都道府県名、自然の地名、地形の特徴などの基本的な知識を問う問題と、地図・グラフ・統計を読み解くことにより、じっくり考え、論理的に思考して初めて答えにたどり着くような問題とがあります。白地図を使って基本的な知識を確認すると同時に、気候・産業・地形などについては、「なぜそうなるのか」を考えながら学習を進めてください。また、世界地理についても、基本的な事柄は出題しますので、日本とのかかわりの深い国や地域については、参考書などを使用して学習しておく必要があります。

公民の分野では、基本的な知識を問う問題と、時事問題があります。政治に関する内容が比較的多いですが、時事問題は、学校では学習しない内容を含むので、難しいものもあると思います。日々のニュースや日常の出来事に関心を持つことがとても大切です。

西武学園文理中学校

算数

試験時間は50分で、配点は100点です。中学で学習する数学では、法則性などについて論理的理解を深めていくので、その前提として計算を正確に速くできることが大切な要素となります。一貫クラスと特選クラスで問題は異なります。

一貫クラス入試では、()を含む計算を正確に行うことが要求されます。応用問題も複雑なものはありません。テクニックに頼らず、順序良く解いていけば、法則が見えてきて正解にたどり着けます。特選クラス入試では、少し難しい応用問題を出しますが、全体を把握する、多方面から考えるなど、工夫すれば解答の糸口が見えてきます。①は小問集合で、計算を中心に基礎的問題を出します。②～⑥は応用問題です。相似な図形、速さや濃度、グラフの利用など、さまざまな分野から出題しますが、そのうちの小問(1)は基本的な問題です。

国語

試験時間は50分で、配点は100点です。国語は、他人とのコミュニケーションに必要なものであるだけでなく、みずからの頭で思考を巡らす根幹ともなるものです。その意味で、ことばの基本的な使い方や、ことばで表された気持ちの読み取りなどに重点を置いた問題を出題します。

接続詞や副詞など文法事項を含め、正確なことば遣いを問います。また、登場人物の立場に立った心情の変化や作者の思いを問う問題も出します。

①は説明的文章(接続詞や副詞など文法に関する適語補充、キーワードの言い換えなど)です。②は文学的文章(登場人物の心理変化、作者の言いたいことの全体把握)で、③はことわざ・故事成語(空欄補充や意味を問う問題)です。④では、学校で習ったり使ったりする漢字・ことばを中心に問題を出します。「とめ・はね」をきちんと書いてください。

理科

小学生の段階で身につけておいてほしい基本的な知識や理屈、理学的なものの考え方を問う問題を出題しています。日常の生活のなかで見られる理学的事柄に関心を持ち、日ごろから「なぜ・どうして」という疑問を大切に学習してください。物理・化学・生物・地学の各分野から、まんべんなく均等に基本的な問題を出しますので、得意な分野から取り組むなどの工夫をしてみてください。

①は物理的問題(乾電池や電球の電気、ゴムやばねの力、光の性質など)、②は化学的問題(物の溶け方、水溶液の性質、気体の発生など)、③は生物的問題(昆虫や植物の生活・成長、季節や環境とのかかわり、からだの仕組みなど)、④は地学的問題(太陽・月・星の位置の変化、天気の様子、地層、火山や地震の変化・特徴など)となっています。

社会

中学では、覚える勉強から、「なぜ・どうして」を考える、より深い学習をすることになります。日ごろから「なぜ・どうして」という疑問を大切に学習してください。従来どおり歴史・地理・公民からまんべんなく出題します。また、歴史・地理・公民の分野の枠

にとらわれない「融合問題」も出題しており、「融合問題」では論述があります。

※理科と社会は合わせて 60 分で、配点は各 60 点です。時間配分についてはあらかじめ考えておくとういことかと思ひます。試験会場には時計を必ず設置しますので、「何時になつたら次の教科を始める」と決めておくのも一つの方法です。

専修大学松戸中学校

算数

①では計算問題の小問を4問出題します。②は特殊算、数や図形の基本的な性質を問う問題、単位の変換などの小問5問です。③から⑦までは文章題で、グラフを読み取る問題、規則性を見つける問題、図形の問題などを出題します。2018年度入試から、最後の⑦は思考力・判断力・表現力を問う問題となっています。

国語

例年どおりの傾向で、大問3題を出題します。①は漢字の読み・書きを合わせて10問、②は物語文、③は説明文で、設問数はそれぞれ10問程度です。レベルは中学入試として標準的で難解な問題はなく、ことばや文法の問題といった知識問題も文章の中から出題しており、総合的な国語の力を試すものになっています。文章の内容もそれほど難しくはないので、スムーズに読み進めることができると思います。解答方式については、記号の選択や文章中からの書き抜きが多いですが、自分のことばを使って答える記述式の問題もあります。

理科

2018年度入試から形式を一部変更し、記述問題を増やしています。出題傾向は形式・難度とも例年と変わらず、標準的な問題です。大問は物理・化学・生物・地学の4分野が各1題と、小問集合が1題で、各分野をまんべんなく出題しています。問題の形式は、基礎的な知識を問うものや、図を見たりグラフを読み取ったりして答えるものが中心ですが、簡単な絵やグラフを描くものも出題します。

社会

2018年度入試から大問構成を変更しています。難度は例年どおりで、基礎知識を問うものが中心です。大問は総合的な社会（地理・歴史・公民の全分野）が1題、地理的分野が1題、歴史的分野が2題、公民的分野が1題の5題です。各分野とも、基礎知識をもとに自分で考えて「定められた字数の中にまとめる」練習をしておきましょう。また、「グラフや表を読み取る」学習もしておいてください。「時事問題」も直接的または間接的に出題しています。2019年から2020年秋ごろまでにかけてのニュースや、話題になったことについても調べておくとい良いでしょう。総合的な社会の問題では「地形図など地図を読み取る」学習をしておきましょう。世界地理や世界史は出題しませんが、日本とかかわりの深い国や国際問題などについては学習しておくことをお勧めします。

麗澤中学校

算数

問題文で問われていることを的確に読み取ったうえで、素早く正確に計算できる力、文章を数式や図に直して視覚化（イメージ）できる力、常に正しさを実験して確かめることのできる力を見ます。2021年度から大問を1題減らし、4題とします。①は計算問題で、早く正確に計算する力を見ます。基本的な四則演算の問題を1問2分以内で解けるように練習してください。②は割合・速さ・規則性・面積などの小問集合です。どの分野においても基本的な内容を問うので、問題集の例題レベルを解けるようにしておきましょう。③は図形問題では、必要な図形を正確に見つけ出す力を問います。④は思考力問題で、第1回・第2回に関しては、答えだけではなく途中の考え方も書いてもらいます。

国語

第1回・第2回では、漢字を正確に読み書きする力、説明的文章の論理的読解力と論理的思考力、物語文の人物の心情を推し量る力を問います。第3回・第4回では、教育漢字のなかから、漢字の読み書きの問題を出題します。また、接続詞をはじめとした文法問題など、国語の基礎知識を測る問題を出題する予定です。説明的文章の本文では、第1回から第4回まで共通する大テーマが設定されています。限られた時間内に、ある程度まとまった文章を正確に読み取り、問われていることに的確に答えるためにも、ふだんから使えることばを増やすこと、そして大人が読むような文章にも挑戦することを大切にしてください。また、文章以外に図や絵などを読解する問題も出題する予定です。このような問題も、説明的文章の読解と同様に、図や絵から重要な情報を正確に読み取り、理解する力を求めます。

理科

①は物理・化学・生物・地学・時事問題の小問集合です。②～⑤は、物理・化学・生物・地学の4分野からそれぞれ出題します。いずれの分野も教科書などの基礎的事項が理解できているかを確認する問題となっています。理科を学ぶうえで大事なものは、読む力、考える力、計算する力です。与えられた文章をよく読み、どんな実験を行ったのか、どんな結果が得られたのか、正確に読み解く力が必要です。そして得られた結果から、どのようなことがいえるのか、それはどのような法則につながるのか、データを表にまとめたり、グラフを描いたりしながら、分析する力を磨いておきましょう。また、「こういう場合であれば結果はどうなりますか」と応用力を問うこともあります。

社会

①と②が地理的分野、③と④が歴史的分野、⑤が公民的分野という構成です。各分野とも、単に知識を問うのではなく、学習した内容と身につけた知識を実際の生活のなかで生かしていく力を問います。図・グラフ・史料を読み解く力、そして読み解いた事柄を複合的に考察して答えにたどり着く力を身につけましょう。新聞・ニュース・インターネットなどを通じて、時事的な事柄についてもアンテナを巡らし、社会の諸問題に関心を持って学習するよう心がけてください。社会の語句については、特に漢字で書くことを指定され

た場合を除き、ひらがなで解答しても構いません。一方で、漢字で書く語句は、正しい字で書けるように、繰り返し書いて覚えるようにしましょう。

英語

英語入試は、インタビュー形式で行います。①の日常会話と、③の質疑応答に関しては、日本語の面接でも問われるような一般的な問いに、英語で答えられるように準備をしておいてください。②の描写・説明においては、語彙と表現の幅が広ければ広いだけ、聞き取りにも解答にも有利です。学んだ表現を聞き取り、自分で使う（話す）ことを想定して学習を進めてください。試験全般にわたって、複雑な表現を使う必要はありません。簡潔な表現を用いて、それぞれのタイプの問題に解答できるように準備をしておいてください。